
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第192号(通巻第259号)

2021年3月1日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会，研修，教育フォーラム等に関するお知らせは，改変しない限り，自由に複写，配布していただいて結構です。

■令和2年度教師力養成講座の報告

2月8日（木），山梨大学教師塾プログラム事業の一環として、『教師力養成講座』を開催しました。

本講座は，主に学部2年生を対象に，現場経験豊富な各講師からの講義を受けることをとおし，間近に控えた教育実習への心構えを新たにすること，また，自身のキャリア発達を促すきっかけにすることなどを期待して企画されました。当日は，複数の教室で分散聴講するなど感染症対策を綿密に行う中，132名が受講しました。



第一部は法政大学の辻本昭彦先生を講師としてお招きし，「『教師』の仕事の意味と魅力」と題した講演を拝聴しました。第二部は予め希望した校種の分科会に分かれて，本学の客員教授の先生方並びに附属学校園の先生方よりお話を伺いました。受講後のアンケートには，多くの前向きな意見が寄せられ，充実した学びであったことがうかがえました。その一部を紹介します。

- ・ 本日の講座では私の中にあった教師（教育）という固定概念が覆された気がした
- ・ 質疑応答で，アットホームな感じで色々なことを聞けて嬉しかったし，勉強になった
- ・ 教員になった際の不安を解消してくれた
- ・ 教育実習に行く理由を見つけることができた
- ・ 教員になろうか悩むこともあるが，今日の講演を受けて，やっぱり教員になりたいという思いが芽生えてきた。前向きな気持ちで教育実習や教員採用試験に臨めそうです
- ・ 幼い頃から教師には絶対になりたくないと思っていたがこの講義で初めて教師という仕事に興味を湧いた。今は夢がないがこれから教師を視野に入れてもう一度考えてみたい
- ・ 今回この講座を受けてみて，改めて教師という仕事の大変さや面白さというものを学ぶことができた，来年度の教育実習に向けて，心構えを持つことが出来て良かったと思った

それぞれの先生方の豊かなご経験をもとにしたお話しによって，学生の皆さんが，社会人として，教師として活躍する数年後の自分の姿を思い描きながら，自身の「今」を見つめ直す機会となることがで

きたのではないかと思います。

ご講演を務めていただいた辻本昭彦先生、荻原ひろみ先生(附属幼稚園)、中込昭彦先生(附属特別支援学校)、客員教授の石丸洋一先生、氏原一宏先生、小川巖先生、奥田正治先生、窪田新治先生、興水清司先生、小林玲子先生、中込和彦先生、穂原桂先生ならびに開催を支えてくださった学部事務の皆様、ありがとうございました。

■山梨大学教師塾「初任者元気アップ講座」の開催報告

令和3年2月15日(月)、教員採用試験に合格し4月から教壇に立つ予定の学生や、将来教員を目指している学生を対象に、山梨大学教師塾「初任者元気アップ講座」を開催しました。当日は、学生12名が参加し、有意義な時間を過ごしました。

講師としてお迎えした先生は、佐藤浩次先生(甲府市立玉諸小学校主幹教諭)、長田修一先生(甲府市立南中学校主幹教諭)、小林正治先生(甲府市立伊勢小学校校長)の3名で、御自身の経験をもとに、小・中学校の現状や管理職として初任者に望むこと等について、講義をしていただきました。

先生方のお話は、実例を交えた具体的なお話でした。例えば、「就任するまでにしておきたい心と物質的な準備」「初めに何を話すか」「記録をとる習慣を身につけるノートのすすめ」「学級・授業づくり」「トラブルへの対応」など、教師としての心構えやアイデアなどが満載でした。また、小林校長先生からは、学校や教員の現状と働き方、保護者との関わり方など管理職の立場から期待することをお話いただきました。さらに、職場の初任者や多くの先生方にインタビューをして、学生へのアドバイスを紹介してくださいました。購入しておいた方がよいものや、服装、一日の仕事内容、授業準備の方法など、学生にとっては、4月からの学校生活が、とてもイメージしやすくなったのではないのでしょうか。

今年度は講義の後「何でも質問コーナー」を設け、学生からの疑問に、講師の先生方をはじめ、現場経験豊かな3名の客員教授の先生方(小林先生、窪田先生、奥田先生)にもお話しいただきました。例えば給料のこと、場に応じた服装、職場の人間関係、専門外の部活動を担当することへの不安など学生からの素朴でいて真剣な相談に、丁寧にお答えいただきました。参加者の不安を減らし、現場に立つ希望と勇気を与えてもらった時間となりました。

参加した学生は、講師の先生方の話に、メモを取りながら素晴らしい態度で臨んでくれました。4月からの現場の勤務でも、山梨大学出身という自信とプライドをもって、子どもたちと笑顔あふれる実践をし、素敵な先生になってくれるであろうと確信できました。

◆ 参加者アンケートより(抜粋) ◆

○4月までに不安がとても大きかったのですが、改めて気を引きしめて頑張っていこうと明るい気持ちになった。また、分からないことも解決で



伊勢小：小林正治校長先生



玉諸小：佐藤浩次先生



甲府南中：長田修一先生

きてよかった。

○話を聞けたことで、心の負担を減らすことにつながった。

○ベテランの先生方から現場でのお話を聞くことができ、非常に勉強になった。また、質問に答えていただき、不安が少し取り除かれた。

○聞く機会をあまり持つことのできないような疑問を解消することができてよかった。

○心構えや準備することがよく分かった。また、教師としての自覚を再認識する機会となった。

■第37回 教育フォーラム

コロナ禍における子ども支援 — 教育相談として何ができるのか —

令和3年2月15日午後6時から第37回教育フォーラムを開催しました。当初は対面での実施を予定していましたが、1月に入り県内における感染者数が増加する中、感染防止への配慮からオンラインでの開催に変更しました。

今年は、コロナ禍による臨時休業が3月の初旬から5月末くらいまで続き、その後も学校や家庭で制限の多い生活を強いられています。

こうした変化のために精神的な不安やストレス、不登校やいじめなど様々なことが懸念されることを勘案し、「コロナ禍における子ども支援—教育相談は子どもと保護者のために何ができるのか—」をテーマとしての開催となりました。

パネリストは、附属幼稚園の荻原ひろみ先生、山梨県総合教育センター相談支援部の榛原砂穂理先生にお願いし、それぞれの立場、視点からの発表やご意見をいただきました。また、コーディネーターは、本学教育学部附属教育実践総合センターの川本静香准教授にお願いしました。オンライン開催となりましたが、多くの方の参加を得るなか、熱心な議論が行われました。

参加者 総計 47名 （運営委員・パネリストを除く）

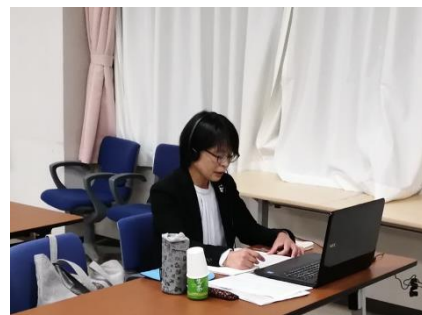
・参加者内訳 幼稚園等 9 小学校 7 中学校 4 高校 4 大学 11 行政 7 一般 5

各パネリストからは、次のような内容の発表がありました。

「幼稚園の取り組み～子育てを支える～」

荻原 ひろみ （山梨大学教育学部附属幼稚園 副園長）

- ・ 附属幼稚園では、遊びを通して環境にかかわり試行錯誤を繰り返しながら探究をしている。正に遊びの中で学んでいる。
- ・ 幼児期は自分の言葉がうまく伝えられないことがストレスとなり、予想以上に子供の体に影響を及ぼすと言える。子供の言葉のみならず表情やしぐさに教師が共感し耳を傾けて向かい合うということが子供たちの健やかな心と体を育んでいくと考えている。



- ・ 幼児期においては、保護者が抱える問題に向かい合うということも非常に重要なことだと考えている。家庭の状況や保護者の心持ちというものは子供に少なからず影響するため、保護者の支援、特に子育てにおける不安や悩みなどを教師が受け止め支えるための取組を行っている。また、保護者同士が支え合う場を設けてきた。
- ・ 今年度、「つながり」をもつための取組ができないため、3月6日から動画配信を始めた。どこにも出かけられない中で、「子どもたちにできるだけ楽しい時間を過ごしてほしい」そんな想いから、園の再開まで毎日動画配信を続け計56本の配信を行った。
- ・ 毎週1回緊急メールを使った健康チェックを実施し、体調が悪い場合は養護教諭が電話をして詳しく聞き取りをした。
- ・ 園再開後は、健康チェックや飛沫防止をわかりやすい形で行い、保護者や園児の不安を軽減することに務めた。
- ・ 園児や保護者へのケアとして、電話やweb（もやもやBOX）での相談活動を実施した。

「学校支援を考える～総合教育センターの視点から～」

榛原 砂穂理(山梨県総合教育センター相談支援部 主査・指導主事)

- ・ 総合教育センターの教育相談担当は、児童生徒の健やかな成長を目指し、相談者の心に寄り添った面接相談や電話相談を行い、学校教育を支援することを目的の一つとしている。
- ・ 総合教育センターの相談業務は、電話相談と面接相談がある。
- ・ 電話相談は電話相談員による匿名の相談で、24時間365日対応。幼児から高校生までを対象としている。面接相談は平日午前9時から午後5時で、県内の小学生から高校生、保護者や教職員を対象としている。相談内容は、いじめ、不登校、友人関係、家庭問題等で、公立私立を問わず受け付けている。
- ・ 電話相談の内容は、例年、不登校、いじめ、学校問題が多い。今年度、昨年度に比べ全体の相談件数は減っているが、家庭問題の相談が多かった。4月5月は不登校の相談はほとんどなかった。相談対象の延べ人数の割合は27%が小学生、25%が中学生、24%が高校生であった。今年は高校1年生の相談が例年の3倍あった。



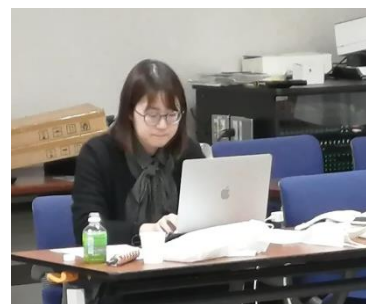
- ・ 面接相談も電話相談と同様、今年度、全体的に相談件数が少なかった。令和2年度の4月は感染防止に配慮し面接相談を実施しなかった。5月は学校が再開されていないことなどに配慮して電話による代替相談を行った。
- ・ 面接相談の内容は不登校が一番多い。昨年度は6割、今年度は7割を占めている。続いて特性等に関する情緒問題、いじめ、学校問題、学業不振となっている。
- ・ 相談対象の延べ人数の割合は38%が高校生、36%が中学生、23%が小学生となっている。
- ・ 昨年度までと違うと感じる相談内容として次のようなものがあった。
 - ◇ 修学旅行ができるか、オープンスクールはあるか、受験はどうなっているかなど先の見えない不安に対する相談

- ◇ 新しいクラスや高校入学など，新しい環境への不安に対する相談
- ◇ 勉強が分からない。進み方が早いなど学習の進捗等への不安
- ◇ 友人とあまり会えないことから友達とうまくやっていけるかという人間関係への不安
- ◇ 大会の中止や学園祭・運動会の縮小など，制約のある学校生活に対するストレスや，家から出ることができないストレスから癪癢を起し，暴れたり暴言を吐いたりするなどの相談

参加者からの意見等

協議の中では，中学校の先生から，保護者も教職員もストレスフルな毎日を送っている。ストレスマネジメントの必要性や進め方についての質問が出され意見交換を行った。

また，幼稚園（認定こども園）の先生からは，学童保育や未満児など幅広い年齢層の子供がいる中，うがい，手洗い，換気，バスの座席数など工夫をし，できるだけ色々な活動や日常に近い生活ができるようにしている。対策をしながらコロナを正しく恐れることが大切であるなどの意見もあった。

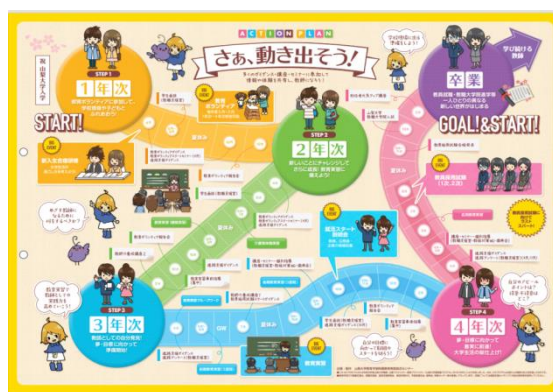


■令和2年度版「ACTION PLAN」ファイルを作成しました！

山梨大学教師塾プログラム 2019－2020（山梨大学戦略・公募プロジェクトー教育関連プロジェクトー）の取組の一環として，令和2年度版「ACTION PLAN」ファイルを作成しました。この「ACTION PLAN」は，入学から卒業までを4つのステップに分け，教職をはじめとする進路支援のために教育学部で開催されている各種ガイダンス・講座・セミナー等の情報を1枚のチャートにまとめたものです。学生は，この「ACTION PLAN」をもとに，授業外の自学自習活動に取り組み，資料などをこのファイルに綴じ，4年間の学びの履歴としていきます。この令和2年度版「ACTION PLAN」ファイルは，来年度入学する1年生全員に配付する予定です。



「ACTION PLAN」ファイル



「ACTION PLAN」

これまでのセンターだよりの一部は，<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepe/2306/> で見ることができます。